

第八回育英生を決定

善光寺海外留学僧派遣育英会

善光寺海外留学僧派遣育英会（理事長＝黒田武志善光寺住職、事務局＝横浜市港南区日野町一六〇四・曹洞宗善光寺）は、このほど第八回育英生として五人の採用と二人の継続を決定した。今年度は日韓交流の年にしたいとの考えから、韓国人の育英生採用に重点が置かれた。派遣先は新たにカンボジアが加わり、これにより派遣育英生の総数は十カ国・四十人になった。新しく採用決定した育英生は、カンボジアに派遣する真言宗僧侶の渋井修氏、山手学院高等学校講師で曹洞宗で得度したアメリカ人のペル

キ・ローフ・大玄氏、韓国からの留学生で立正大学大学院の韓仁徹、大正大学の韓京愛、東北大学の権来順の各氏。また継続採用は、タイ国ワット・パクナムで修行中の曹洞宗僧侶・落合隆氏と、韓国から東洋大学に留学中の曹溪宗僧侶・李煥秀氏。渋井氏はタイ留学で採用されており、二度目の採用になる。

カンボジアへの育英生派遣は今回が初めてで、渋井氏はタイ国のワット・パクナムで得度修行。その間、カンボジアに入り、虐殺者の霊を弔う供養の行脚を続けた。こんど再びカンボ



辞令伝達式

お祝いの言葉を受ける皆様



ジア行脚を決意し、虐殺された人々の供養と現地での日本語教育、カンボジア仏教会の復興を目指したいとの菩提心を起こし、育英生としての派遣を求めた。ワット・パクナムのプラ・パワーナ・コーソン・テーラ副住職が推薦した。ペルキ・ローフ・大玄氏はアメリカ・ミネソタ州出身で、ミネソタ大学日本語学科を卒業後、来日し、市邨学園高等学校、愛知淑徳大学及び高等学校の講師を経て、現在は横浜の山手学院高等学校講師として教鞭を執っている。仏教や禅に関心を持ち、昨秋、善光寺の黒田住職に師事して剃髪得度。将来は出家の道を歩み、道元禅師の著作を英訳して禅の国際的普及を図りたいと願っている。推薦者は駒沢女子短期大学の東隆眞副学長。

韓仁徹氏は大韓仏教曹溪宗の僧侶。釜山の梵魚寺仏教専門講院大教科を卒業し、日本の駒沢大学仏教学部仏教学科に入学、卒業後、立正大

学大学院文学研究科仏教学専攻の修士課程を修了し、同博士課程で律蔵の研究を行なっている。立正大学の田賀龍彦教授が推薦した。

韓京愛氏は梵魚寺で受戒した尼僧。韓国仏教大学哲学科在学中に来日し、東京の神田外国語学院を卒業後、大正大学に入学し社会福祉学科で学んでいる。大正大学で指導している斎藤円真講師が推薦者になっている。

権来順氏（女性）は韓国の嶺南大学哲学科を卒業し、現在、東北大学の印度学仏教史学科研究生。推薦者である仙台市の曹洞宗玄光庵住職伊串昇頼氏は、権氏が特別の用事がない限り毎朝同寺に来山し、三十分の暁天坐禅、約一時間の朝課を勤め、さらに清掃も手伝った後、大学へ自転車通勤していることに「身を以って行ずる身心学道に徹した勉学精進に頭が下がる」と感嘆している。保証人は塚本啓祥指導教授。